

**幾つになっても、
学舎はふるさと。**



学生団体のらねこ

種子島生まれ、種子島育ち
魅力はやっぱり豊かな自然
でも、それだけじゃないんです
国内最大のロケット発射場を持つ、科学の島
鉄砲伝来の地という、歴史的な島
そう、過去と未来が交差する不思議な島
それが種子島です

そんな人口2万7000人ほどのふるさと、
人口減少をはじめとする多くの課題を持つ島となりました
高校卒業後、多くの若者が進学や就職のために種子島を離れます
育ててくれた故郷に恩返しをしたい、関わりを持ち続けたい
島を離れそれぞれの新天地で生活していく中で、
そんな想いが生まれました
この想いこそ、私たち「のらねこ」の始まりです

2021年5月、たった5人ではじめた取り組みは日々活動の輪を広げ、
今や30人を超える仲間とともに活動しています
活動を知り声をかけてくださる方
ともに地域のために活動して下さる方
多くの支えがあり、私たちは活動を続けられています
できることからコツコツと
種子島の未来のために歩き続けるのらねこです



CONTENTS

04. のらねこの活動

05. 活動実績


06. メンバーの所属

07. メンバーの特徴

08. プロジェクト

09. 海での活動

10. メンバー

A full-page background image showing a sunset over the ocean. The sun is low on the horizon, creating a bright glow and long shadows. Two people are silhouetted against the bright sky, standing on a beach and looking out at the water. The sky is filled with large, dramatic clouds. The overall mood is peaceful and contemplative.

幾つになっても、
学び舎はふるさと。

のらねこの活動

種子島出身の大学生を中心としたコミュニティを運営しています。人口の減少が続く種子島において、これから起こり得る課題に対処できるよう、島外からでも種子島に関わることでできる仕組みづくりを行っています。のらねこでは、大学生の長期休暇にあたる時期（春季3月/夏季8月）に1週間程度の活動強化週間（のらねこウィーク）を設定し、帰省を合わせています。島内の中高生との交流や種子島でチャレンジしたいことを実践しています。それ以外の時期は、月に1回のオンラインミーティングで学生間の繋がりを維持しています。



活動実績

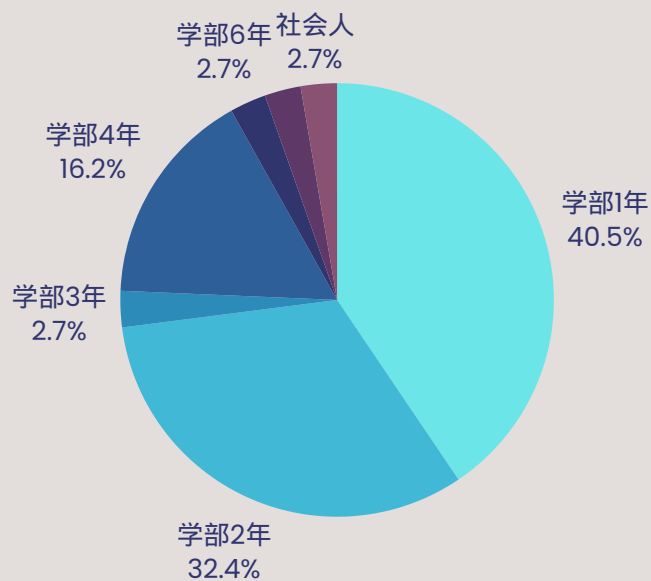
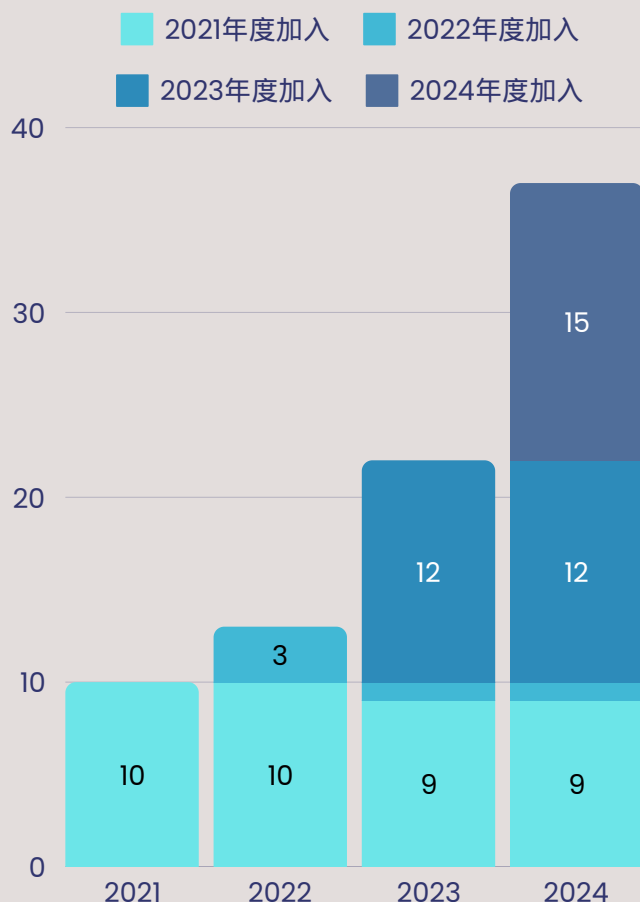
- 2021 ● 5月 学生団体のらねこ 発足
- 11月 種子島高校の生徒を対象としたオンライン進路相談会 開催
- 12月 種子島高校の生徒を対象としたオンラインディスカッションイベント 開催
- 2022 ● 2月 種子島中学校 学生交流会 のらねこトーク 開催
- 3月 種子島未来ビジョン共創とアクションに向けたワーキンググループ 参加
- 8月 たねがしまの観光について考えるワークショップ かくなこ 開催
- 9月 Co-JUNKANプラットフォーム 実証試験施設見学 参加 @種子島
- 2023 ● 2月 西之表市地域支援課 学生向けライフデザインジャーニー 協力
- 3月 鹿児島大学 進取の精神チャレンジプログラム 地方創生活動部門 優秀賞
- 4月 のらねこ作成 種子島オリジナルマップ 公開
- 8月 たねがしま脱炭素未来ワークショップ ファシリテーター参加
- 9月 化学工学会 第53回 秋季大会（長野） 発表
- 12月 健康まちづくりプロジェクト（JA鹿児島・鹿児島大学医学部）連携
- 2024 ● 1月 大和証券財団 ボランティア活動助成 採択
- 4月 ラッシュジャパン LUSHチャリティバンク助成 採択
- 5月 のらねこ 環境教育プログラム 始動
- 8月 鹿児島市立高校有志 Sea Flowers 来島 ビーチクリーン @美浜
- 11月 うみねこプロジェクト研究 MIHAMA UP @沖永良部島、福井県立若狭高校
- 12月 うみねこプロジェクト研究 MIHAMA UP @熊本県立芦北高校

たった5人で始めた活動 気づけば37名に。

2021年5人で立ち上げから半年後には10名、翌年には新たに3名を迎えました。2023年以降は毎年10名程度が加入しています。2024年度は37名が在籍しています。

メンバーの募集は4月にInstagramで行い、説明会を経て5月から加入する流れになってます。

加入者の多くは、のらねこ主催のビーチクリーンやアート体験イベントへ参加した方、たねがしま脱炭素未来ワークショップや総合的な探求の学習で一緒に学んだ方が多くを占めています。



メンバーの所属

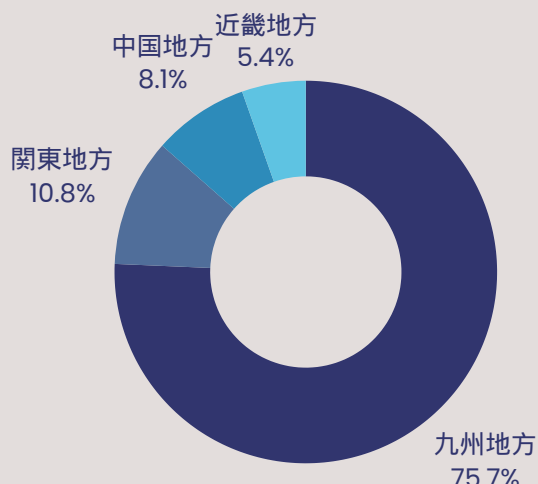
九州大学、鹿児島大学、大分大学、山口大学、三重大学、東京学芸大学、宮崎公立大学、長崎県立大学、北九州市立大学、公立鳥取環境大学、鹿児島国際大学、九州産業大学、大和大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島女子短期大学、鹿児島医療技術専門学校、相模原看護専門学校など



所属や学年の垣根を 超えた学びの場。

得意を活かして。

音楽やダンス、カメラやイラストなどそれぞれの趣味や特技を活かせる環境づくりに取り組んでいます。加入時に趣味などの情報を登録することで、メンバーのスキルを共有しています。さらに、メンバーの中には、音楽を極めるために休学して活動したり、語学を学ぶために海外へ留学したりする人もいます。



種子島から全国へ、そして世界へ。

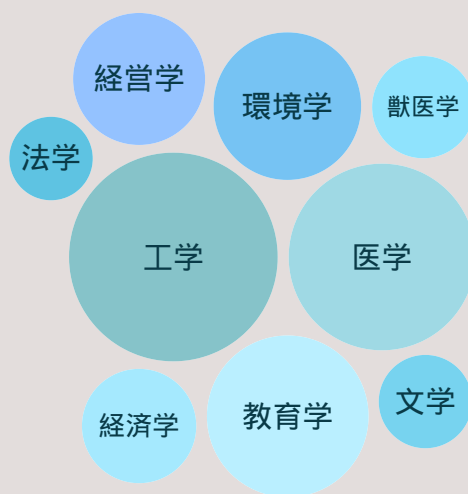
メンバーは日本各地で学んでいます。最も多いのは、九州地方で、特に鹿児島県と福岡県の在住者が多くを占めています。次に多いのは、関東地方で西之表市の移住促進事業に参加することもあります。

メンバーが進学先で築いた繋がりが、活動において活かされることも多く、種子島の関係人口創出にも寄与していると考えています。広域なネットワークはのらねこの強みでもあり、オンラインを活用しながら繋がりを保っています。

多様な専攻、 学問を越境する。

工学や医学、経済学をはじめとする多様な専攻を活かして活動しています。

中高生を対象とするイベントでは、教職課程に在籍する学生が中心となって運営したり、調査活動など専門知識が必要な際には理工系の学生が大学での学びを活かしたりと、学問を越境して学び合う場が形成されています。



プロジェクト



学びの浜 MIHAMA プロジェクト

西之表市にある美浜を学びの浜MIHAMAとしてブランディングする活動です。(通称：うみねこ)

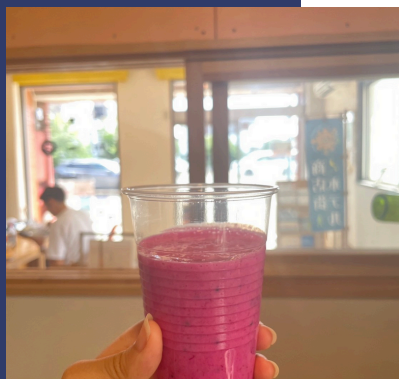
住民参加型ビーチクリーンの開催、漂着ゴミ調査の実施、砂浜に落ちているものを使ったアート体験、プロジェクト研究 MIHAMA UP（マイクロプラスチック、藻場など）



たねがしまECOな暮らしプロジェクト

地球に優しく種子島らしい暮らしを探す活動です。
(通称：すみねこ)

島内の中高生とのワークショップ、環境家計簿を用いた暮らしの調査、90歳ヒアリングによる知恵や文化の調査、種子島における持続可能なライフスタイルに関する探求



食と健康プロジェクト

種子島の食に着目した健康づくり活動です。
(通称：もぐねこ)

鹿児島大学と連携した薬膳レシピ開発、種子島の野菜を使った薬膳試作会、薬膳を囲んだ地域住民との交流会、薬膳を通じた中高生とのワークショップ



離島の魅力発信プロジェクト

離島の文化やその地で取り組まれている研究を学び発信する活動です。(通称：みるねこ)

種子島の魅力を地図にして配布、他の離島の文化や研究を調査、離島同士の暮らしや文化の違いを探求、離島で活動する方々との繋がりづくり

海での活動で気づいたこと

PICK UP!

のらねこでは発足間もない頃から美浜での活動を行ってきました。活動資金も実績もない私たちがまずできることはビーチクリーンだと考えたためです。長期休暇に帰省時期を合わせて地元の水を掃除するという取り組みは、その後の活動スタイルの土台となっています。「種子島の水が好き」という共通のおもいが人と人を繋ぎ、年を重ねるごとに新たな取り組みが生まれ続けています。

活動から1年後には、種子島の中高生も私たちと一緒にビーチクリーンに参加してくれるようになりました。さらには、海でゴミを拾うだけでなく、種子島の水の豊かさを守るためにできることをテーマにしたワークショップの開催が毎年の恒例になりました。中高生との意見交換から多くのことに気づき学んでいます。2024年には、ワークショップの中で出たアイディアからヒントを得て、貝殻や海ゴミを使ったアート体験活動を実施しました。



活動からおおよそ4年が経ち、島内の子供から大人までが参加する多世代交流の場になりました。2024年には鹿児島市立玉龍高校SeaFlowersのメンバーが来島して、美浜をフィールドに環境学習を行いました。5名で始めた活動でしたが、気づけば参加人数は延べ165名に達し、仲間づくりの大切さを実感する取り組みとなっています。うみねこでの活動をきっかけに種子島や環境問題に関心を持つ人々が増えることを願いこれからも続けていきます。

沖永良部島での活動

2024年11月、活動当初からお世話になっている芝浦工業大学の栗島先生の紹介で沖永良部島へ遠征に出かけました。そこで「うじきれい団」を訪ねました。うじきれい団は夏休みの宿題をキッカケに365日雨が降る日と寝坊した日以外、漂流ゴミの清掃を続けている素敵な家族です。私たちも明け方、内喜名浜でマイクロプラスチックを拾いました。同じ鹿児島県の離島でもまだまだ知らない活動がたくさんあることを実感しました。それと同時に地域を超えた繋がりを楽しみました。



メンバー 2024



Shinnosuke SHIMOE



Naho SATO



Chisato HAYASHIDA



Ryosuke SAKAMOTO



Kota NAGANO



China TAKEDA



Ririko SHIMOMURA



Shunsuke YANAGI



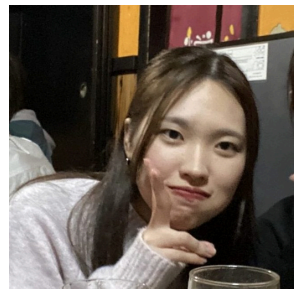
Sayaka HANAOKI



Kokoro SAMESHIMA



Anno KAMADA



Kanoko SHIMIZU



Kohime OYAMA



Jiro SHIMOMURA



Mirai HIRAKAWA



Ikuya MORI



Yuka KAWANO



Momoka KAWASAKI



Maho OKUMURA



Aiko SHIN



Asuha MATSUDA



Minori HARASAKI



Yui YOSHIYA



Aomi SEKI



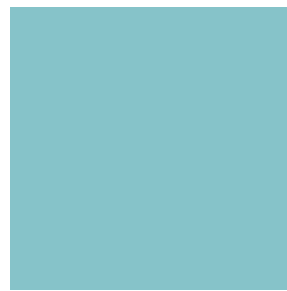
Yua MORINAGA



Aoi TAHARA



Tamaki HORI



Yukiho HIRAKAWA



Ririka YAMADA





ホームページ	noraneko.blue
メール	noraneko.env@gmail.com
Instagram	noraneko_tanegashima

発行日 2025 年 2 月 1 日

編集チーム：鎌田杏乃 林田千聖 坂元亮介 下江信之介 申あいこ



ホームページ



Instagram